

## 主 文

本件上告を棄却する。

## 理 由

弁護人松井繁明の上告趣意第一点は、憲法違反をいうが、原判決は被告人の前科を量刑上参酌しているにすぎず、前犯について再び刑を科したのではないことが明らかであるから、なんら憲法三九条に違反するものではない。このことは当裁判所昭和二四年（れ）第一二六〇号同年一二月二一日大法廷判決、刑集三卷一二号二〇六二頁の趣旨に照らし明らかである。したがって、所論は理由がない。同弁護人の上告趣意第二点は事実誤認、同第三点は量刑不当の各主張であつて、いずれも適法な上告理由にあたらない。

よつて、刑訴法四〇八条により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり判決する。

昭和四六年七月二二日

最高裁判所第一小法廷

裁判長裁判官	下	田	武	三
裁判官	大	隅	健	一 郎
裁判官	藤	林	益	三
裁判官	岸		盛	一